

活動記録(2023年下半年)～出席した主な公務や地域行事など～（個別の面談や訪問、会合などは除いています）

- 7月

2

小竹南良津獅子舞、福岡県看護連盟 通常総会

3

貝島百合野山荘の保存と活用を考える市民の会 総会

4

宮若市自治会会長 総会懇親会

5

農林水産委員会 正副勉強会、県庁鞍駿会 役員会

6

福岡県ビルメンテナンス政治連盟 北九州地区 懇談会

7

筑豊地区私立幼稚園 P T A 連合会 役員総会

11

自民党県議団 災害本部

12

農林水産委員会 管内視察（～13日）

14

直鞍議会議長連絡協議会

15

自民党県連 総務会、小竹祇園山笠

17

自民党県議団・県連 東南地区被災地視察

19

県道芹田石丸線 道路改良事業 地元説明会

21

大黒宮 名越祭

23

郡民野球大会、宮若市火花大会

25

鞍手町同和問題協議会

28

北九州地方・家庭裁判所本庁昇格期成会 総会

29

麻生太郎 宮若市・鞍手郡後援会 役員懇親会

30

宮田企業交流会 納涼大会

31

J Cまつり 2023

32

西川改修期成会同盟 総会

33

自民党福岡 10 区支部長候補選挙街頭演説会
- 8月

2

ちよっくら未来づくりリラボ 開講式

3

福岡県料飲生活衛生同業組合 研修交流会

4

松尾統章 自民党県議団会長 就任祝賀会

5

県議会棟、福岡 10 区支部長候補選挙街頭演説会

6

福岡 10 区支部長候補選挙街頭演説会

7

鞍駿祭

8

宮若市水難事故防止協議会（オブザーバー参加）

16

自民党県連 総務会

17

ちよっくら未来づくりリラボと大和ハウス九州工場 小竹町後援会 役員会

19

犬鳴川みどりの会 定期総会

20

自民党県連 青年局合同会議

21

直方鞍手線整備促進協議会 要望

22

子育て支援・人材育成調査特別委員会

23

果樹振興議連 現地視察＠八丈市 うきは市

24

自民党宮若・鞍手郡連合支部 役員会

26

鞍手町後援会 役員会

27

九州各県議会議員親善野球大会＠宮崎県

28

山口読書会 40 周年のつどい

29

地域交通・北下・洋上・J R 議連 合同管外視察（～31日）

各種ご案内・お願い

若者のネットワーク『若葉会』発足！

昨夏に、若い世代の交流会『若葉会』を発足しました。主に45歳以下を対象としており、市町や業種を超えた同世代の交流・情報交換を目的にした組織です。年に数回の主催イベント（ご家族も含めた食事会、地域奉仕活動、講師を招いての勉強会などを予定）や地元商工・農業団体青年部主催の行事への相互参加を考えています。年会費等はなく、基本はLINEグループに加入していただく形になります。入会要件は特にございませんので、ご興味のある方はお気軽に事務所までご連絡ください！

『地域座談会』を順次開催してまいります

地域別（自治会規模を想定）での県政座談会を順次開催していきたいと思います。公民館などをお借りして車座になり、私が一方的にお話するのではなく、地域の様々な課題や皆様のご意見をお聞きし、それにお応えしていくというスタイルを考えています。事務所主催分はランダムに地域を選んで企画してまいります。自治会やグループで企画いただける場合は、優先的に日程を調整してまいりたいと思います。人数も特に「何人以上から」といったものはございませんので、皆様の生の声をお聞かせください。



初回はBBQで盛り上がりしました



お子様も大歓迎です。

プロフィール



【主な略歴】

- 1986年（昭和61年）5月14日 小竹町生まれ ○型
- 小竹町立 小竹南小学校・小竹中学校 卒業
- 鞍手高等学校 普通科 卒業（57回生）
- 北九州市立大学 法学部 政策科学科 卒業
- 衆議院議員 山本幸三 秘書（約10年）
- 福岡県議会議員（2021年6月28日～）現在2期目
- 九州大学大学院 経済学府 修了（QBS 18期）

【現在の主な役職】

- 自由民主党福岡県議団 副会長
- 農林水産委員会 副委員長
- 子育て支援・人材育成調査特別委員会 委員
- 自由民主党福岡県支部連合会 青年局長
- 農政懇話会 事務局員
- J R 九州福北ゆたか線活性化促進議員連盟 事務局員
- 福岡県総合計画審議会 委員

編集後記

本紙の編集も終盤に差し掛かっていた元旦、能登半島での地震のニュースが流れ、翌日には羽田空港での事故、更には私も秘書時代によく通った小倉の鳥町食道街火災と立て続いたため、新年をお祝いする旨の文言で始まる表紙の挨拶文をそのまま使用する気にはとてもなれず、全体的にも編集の必要な箇所が出てまいりましたので、発行が遅くなりました。震災の被害状況は日を追うごとに明らかになり、寒い中で避難生活を余儀なくされている方々の報道を見る度に、日頃の平和が“当たり前”ではないのだと痛感します。次号が発行される今年の夏には復旧が一步でも進んでいることを切に願います。

（花田）

※本紙は私が得た各種資料や調査結果をもとに作成しております。細心の注意を払っておりますが、情報に誤りや表現に不適切な点がございました場合は事務所までご連絡くださいませ。

福岡県議会議員  
宮若市・鞍手町・小竹町 選出

はなだ  
花田尚彦



県政  
報告紙

はなだより

ピックアップ ―災害やコロナを乗り越えて―

令和5年 梅雨前線豪雨 被災地視察

7月初旬に発生した大雨を受け、7月17日に自民党県議団・自民党県連役員メンバーで、特に被害の大きかった県南地域を視察しました。被災地の状況も鑑み、東峰村のBRT専用道、朝倉市の赤谷川（写真①）、久留米市田主丸町の千之尾川（写真②）と田主丸中央病院（写真③）、同市北野町の(株)グラノフェルム（写真④）を訪れましたが、実際に現場に出向くことで、発災時の深刻さや復旧・防災の課題をより具体的に理解することができました。



②土石流の勢いを物語る車



③1階が膝下まで浸水した病院内



①平成29年の九州北部豪雨被害から復旧した護岸が再度崩壊



④水位が排水ポンプ以上に

各地で催しが復活開催！

新型コロナウイルスの影響で数年間、各地の祭り・イベントが中止や規模縮小を余儀なくされていましたが、昨年5月から感染症法上の位置づけが5類へと移行されたことなどから、夏以降は多くの催しが従前の形で開催されました。私自身、初めて参加したのも多くありましたが、県内の伝統・文化・コミュニティを守り形成していく中で、どれも重要な行事であることを改めて体感致しました。



宮若市火花大会



小竹祇園山笠



鞍駿祭



小竹ひがな花まつり



くらて元気まつり



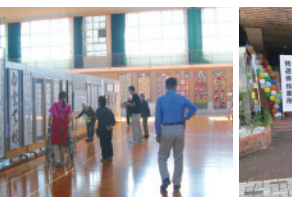
宮田えびす祭り



宮田企業交流会 納涼大会



万年願 平「八月まつり」



鞍手美術展



小竹町民まつり



元気であたたかな地域づくり交流会



J Cまつり2023



宮若ふるさと祭り



剣神社 御遷宮行列



小竹恵比須座



若宮恵比須座

ご挨拶

新年を迎え、多くの方が新たなスタートを心にされていたであろう元旦の16時10分に、能登半島を震源とする最大震度7の地震（それに伴う津波や火災）の発生が報じられました。被害の状況は1月末時点で死者数が230名を超え、安否不明者もまだ十数名おり日夜懸命な捜索が続いています。そして家屋被害は4万6千棟を超え、1万4千人以上の方が今もお避難生活を強いられています。また、発災翌日には羽田空港滑走路上で救援物資を被災地に届ける予定であった海上保安庁の航空機が着陸した旅客機と衝突し炎上するという衝撃的な事故が起きました。奇跡的に旅客機的全乗客・乗員379名は助かりましたが、海保機の方は機長（重傷）を除く5名がお亡くなりになりました。そして続く1月3日には、小倉北区魚町の鳥町食道街で大規模な火災が発生し、35店舗・約2,900㎡もの範囲が焼失してしまいました。ここには私も秘書時代によく食事に伺っていただけに残念でなりません。これらの災害・事故でお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り致しますとともに、被災された方々やご関係の皆様にお見舞いを申し上げます。季節柄、厳しい寒さや感染症の拡大が心配であり、一刻も早い生活環境の改善や瓦礫の撤去・道路の復旧が望まれます。これらが進まないことには災害ボランティアや物資を多く行き渡らせることができませんので、今はまず最前線に対応に当たられている方々にこづかいいただき、我々福岡県も過去の西方沖地震や毎年続く大雨被害の際には国内外の多くの地域からご支援をいただきましたので、まずは募金などのできる支援から進めることが大切であると思います。また、被災地のみならず我々も日頃から災害に対する備えを十分にとっておくことが、何よりも将来被災者になるかもしれない自身への最大の支援にも繋がるのです。

そして先き不安の状況は、災害や諸外国の紛争だけでなく、日本国内の政治にも言えます。昨年末から続く永田町の政治資金問題は、派閥の会計処理の杜撰さや慣習に対する説明責任が問われていたのですが、地方議員も同様に政治献金自体に対して厳しい目が向けられています。しかし、地域廻りや会合出席、活動報告の発行などを真面目に丁寧に行う議員ほど、活動費が積み重なってしまうのが現実です。あらゆる献金を禁止にすべきだとの声を耳にすることもあります。認証を取得すれば議員のパフォーマンスは減り、資産家や時間に余裕のある人しか議員になれない状況が増す恐れがあります。無論、まずは我々現職が襟を正していくのは当然ですが、将来有能な候補者をいかにして輩出していかんということも、真剣に考えていべき段階にきていると私は考えます。

福岡県議会議員 花田尚彦

福岡県ワンヘルス認証商品の販売

ワンヘルスの理念に沿って生産された農林水産物などで「生態系の安全」「温暖化の防止」「人と野生動物の共存」「環境負荷の低減」「食育・花育活動」「地産地消の推進」といった取組事項のうち、2つ以上を実践することを要件として認証された商品です。認証を取得されている生産者・団体や農林水産物・加工品は専用ホームページで検索し、ご覧いただけます。店頭でお見かけの際はぜひご検討ください。



認証ロゴマークシール



直方イオンにて販売会



私が購入した商品



テレビCMも放映

事務所案内

基本、平日 9：00～17：00 が開所時間です。  
（土日開所は週によりです）  
〒823-0003 福岡県宮若市本城 1108  
（本城交差点セブンイレブン横・とり坊主さん隣り）  
TEL：0949-32-1191  
FAX：0949-32-1192  
E-mail：n.hanada.fukuoka@gmail.com  
HP：http://n-hanada.jp



駐車場は正面3台です。





9月定例会 一般質問

9月20日(水)『水難事故防止について』 知事・県土整備部長・教育長

【花田】

7月21日、宮若市で小学6年の女兒3名が川で溺れ亡くなるという大変痛ましい水難事故が起こった。現場は大鳴川と県管理河川である山口川が合流する付近で、水深3mもの急激な深みになっていた。今回の事故を受けて、8月8日に「宮若市水難事故防止協議会」が発足され、市と国交省遠賀川河川事務所をはじめ、県土整備事務所や学校・消防・警察、自治会関係者らが意見を交わし、危険箇所の整理や現地調査を経て必要に応じて立て看板や立ち入り禁止措置を行うと同時に、テキストなどで啓発・教育を行っていくこととなっている。

まず、今回の事故を踏まえ、県は河川管理者としてどのような水難事故防止の取組を行っていくのか知事にお尋ねする。一方で、子ども達にとっては水や生物・植物といった自然環境に親しみをもちてもらうことができる大切な空間ということで、河川や海での水遊びが全て否定されるわけではない。水辺に背を向け離れていくのではなく、川と向き合っていくことも必要ではないか。親水性のある河川整備は今後もさらに進めていくべきであると考えてるが、知事の見解を伺う。

多くの自治体では、河川等において水の事故から子どもの命を守るためにライフジャケットの着用に関する取組が行われており、実際に河川等での水難事故は、放課後や休日に起こるため、家庭に対する啓発がとても重要である。福岡県においても家庭へ強く啓発していくべきであると考えてるが、教育長の所見を伺う。

ライフジャケット等は子どもだけでなく、もちろん大人も着用が求められるものである。とりわけ、安全教育を指導する学校の教員自身が着衣水泳やライフジャケットの着用を経験することは必須であるとも言えるが、着衣のまま川や海の中へ入ったことがある教員やライフジャケットを所有する教員はむしろ少数派ではないだろうか。(ライフジャケット着用の取組を推進している)香川県の事業報告書にあるアンケートでは、「自分自身が着衣泳を経験したことがない」と回答した教員が44%、「ライフジャケットを着用して水の中に入ったことがない」と回答した教員は29%であったそうである。また、児童の間でも着用することが「恥ずかしい」「格好悪い」という感覚があるとも言われるので、まずは指導を行う立場の教員が率先してライフジャケットの着用を体験することが重要である。そこで教育長にお尋ねするが、我が県の教員も着衣水泳やライフジャケットの効用を体験できる幅広い機会を創設・拡充していくべきであると考えてるが、見解をお聞かせ願う。

※左の質問文は要点のみをまとめております。全文をご覧になりたい方は福岡県議会ホームページより検索いただくか、私の事務所にお問い合わせください。



【服部知事】

お亡くなりになったお子様方に哀悼の意を表すとともに、御遺族に対し心からお悔やみを申し上げる。

県ではこれまで水辺公園などの親水施設に川の危険性を示す看板を設置し、利用者の皆様に対し注意喚起や、川で遊ぶ際の注意点などを記載したガイドブックを県のホームページに掲載し、川の安全な利用方法の周知を行っている。あわせて、子供たちを対象に毎年県内の六つの河川「ふくおか水辺の安全講座」を開催し、カヌー体験などを通して安全意識の啓発を図っている。引き続き、これらの取組を進めるとともに、今回のような痛ましい事故が繰り返されないよう、川の利用状況や危険箇所を地元自治体の皆様と連携し調査をした上で、ピクトグラムを活用した分かりやすい注意喚起の看板を新たに設置するなど、水難事故防止の強化に努めてまいります。

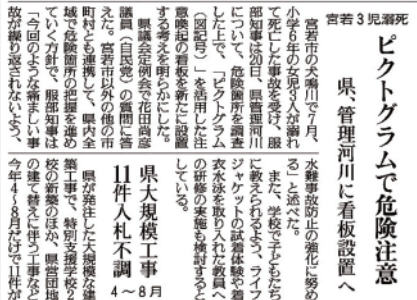
次に親水性のある河川整備について、親水性のある河川整備は地域のにぎわいや憩いの場を創出し、河川に対する関心を高めることで河川の美化や生態系の保全につながる重要な取組である。県ではこれまで階段や遊歩道、水辺公園といった河川に親しみやすい空間の整備を行ってきた。また今年度からは新たに「賑わい愛されるふるさとの川づくり推進事業」を創設して、魅力ある河川空間を形成するための照明や公園など、市町村が行う整備に対し財政的な支援を行っている。今後も地元市町村からの要望を踏まえ、子供たちをはじめ多くの人々が川に集い、川を愛し、川に親しむ心を育むことができるよう、親水性のある河川整備を進めてまいります。

【吉田教育長】

ライフジャケット着用の啓発について、小中学校においては水の事故から子供の命を守るため、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方について学習をしている。一方、国土交通省では、毎年、河川での水難事故が多い状況に鑑み、河川での水難事故はライフジャケットをつければ防げた可能性があるとして、ライフジャケットの着用を推奨している。県教育委員会では、例年、水難事故が多発する時期の前に、児童生徒や保護者に対する安全指導に関する通知を発出しているが、今後、このライフジャケットの着用についてもこの通知の中で周知をしてまいります。

着衣水泳やライフジャケットの着用体験について、着衣のままでは水中で身動きしづらいことやライフジャケット着用の有用性を教員が実際に体験し、その体験に基づき指導することは、児童生徒が水難事故を回避したり自己の安全を確保したりする上で有意義であると考えてる。このため来年度から、安全教育を担当する教員等を対象として、着衣での水泳実技やライフジャケットの試着体験を取り入れた研修の実施を検討している。

新たに設置された看板  
(写真は国交省のもの)  
県も管理河川に順次設置



我が家も大人用と子ども用を買い備えました。香川県では過去に同様の水難事故があり、企業等からの寄付でライフジャケットの普及が進んでいるそうです。「着用が当たり前」の意識醸成に、私も取り組みます。

質問翌日の記事(読売新聞 9月21日 朝刊)

12月定例会 一般質問

12月12日(木)『スタートアップ支援とアントレプレナーシップ教育について』 知事・商工部長・教育長

【はじめに】

『スタートアップ』とは??

革新的なアイデアで短期的に成長する企業のこと。設立10年以内の企業価値10億ドル超の非上場企業を「ユニコーン」と言い、最も多いアメリカで約640社、次ぐ中国で約170社に対し、日本は12社ほど。さらに世界には100億ドル超の「デカコーン」や、1,000億ドル超の「ヘクトコーン」と呼ばれるスタートアップがある。日本国内では直近8年間で投資額が約9倍に増えたが、世界のスピードには遅れを取っている。

『アントレプレナーシップ』とは??

起業家の考え方や行動を指す言葉で「新しい価値を創造しリスクを許容しながら切り切る精神・姿勢」や「個人が現在コントロールできる資源に捉われることなく機会を追求するプロセス」などとされる。よく「起業家精神」と訳されることがあるが、単に「起業や経営に必要な力」というよりも、「常識に捉われずに革新的な価値やアイデアを生み出し行動する力」といった方がよいかもしれない。

※左の質問文は要点のみをまとめております。全文をご覧になりたい方は福岡県議会ホームページより検索いただくか、私の事務所にお問い合わせください。



【服部知事】

成果の一点目は世界最大のバイオクラスターであるボストンを有するマサチューセッツ州政府とのネットワーク構築で、知事らとビジネス分野での交流を促進していくことを確認するとともに、バイオ分野における投資や具体的なビジネスの実現に向けた意見交換を行い今後の連携について確認をした。成果の二点目は県内バイオスタートアップと現地製薬企業・ベンチャーキャピタルとのビジネスマッチングで、今後の共同研究や資金調達に向けたネットワークが行われたことである。成果の三点目は世界有数の金融機関であるステート・ストリート社をはじめとする現地金融機関との関係構築である。

CICとの連携については、今回訪問したCICは令和7年春に、アジアで二か所目となる拠点施設「(仮称)CIC フクオカ」と、スタートアップ支援組織「(仮称)ベンチャー カフェ フクオカ」を本県(新福岡ビル)に開設することを本日11時に発表したところである。本県は九州の経済・交通の中心地であることに加え、アジアへのアクセスの良さ、九州大学をはじめとする優れた大学の存在、アントレプレナーシップがあらわれる地域、といった強みを有しており、今回意見交換を行ったCICの経営幹部もこの点を高く評価されていた。

また、アントレプレナーシップは行政にも通ずるので、県職員にも「行政課題に対応するため日頃からアンテナを張り、情報収集を怠らない「マインドセット」」「その情報を分析し、政策事業を企画・立案する「スキルセット」」「施策の成功に向けリーダーシップや調整力を発揮する「オペレーション」」が求められるとともに、「チーム力」を活かす県庁組織を構築していく。

【吉田教育長】

アントレプレナーシップ教育について、現在、県立高校においては必修修の「総合的な探求の時間」や「課題研究」において生徒が興味関心に応じて設定した課題を掘り下げていく探究活動等を実施しており、糸島高校では地元のスタートアップ企業等と連携して、衛星データの活用による課題解決のプロジェクトに取り組んでいる。また、日本政策金融公庫が主催する「高校生ビジネスプラン・グランプリ」では、今年度、筑紫中央高校が学年全体で地域ニーズを踏まえたビジネスプランの作成に取り組んだことを評価され「学校賞」を受賞している。加えて、朝倉東高校では県内で初めて高校生が運営する「(株)Easter Inc.」を令和3年度に設立し、その運営を通してアントレプレナーシップの育成を図っている。さらに県教育委員会では「ふくおか高校生知の創造塾」として九州大学の教授等をファシリテーターに招き、約120名の高校生が学校の枠を超えて、答えのない問題について議論する「課題解決型学習プログラム」を実施している。今後も、大学や地域の企業等と連携し、社会のつながりの中で学ぶ取組を通して、新たな価値を創造する力の育成を図ってまいります。

\*1「CIC」…ケンブリッジ・イノベーション・センター(アメリカにある、スタートアップ企業等にオフィス空間や管理サービスを提供する起業支援組織。)  
\*2「MIT」…マサチューセッツ工科大学(アメリカの私立大学で、工科大学では世界のトップとされる。起業では年間900社もの新会社が発立されている。)

視察報告

以下は一部概要です。記載外の訪問先や視察で学んだ詳細な情報は、機会を頂けましたらご説明致します。

農林水産委員会 管内視察 【日程】7月12日(水)～13日(木) 【先行】福岡農林事務所管内(福津市・宗像市・糸島市・福岡市)

●福岡農林事務所 「管内事業の概要について、管内市町村要望」@北筑前普及指導センター  
農林水産委員会では県内に6つある農林事務所(福岡・朝倉・八幡・飯塚・筑後・行橋)を管内視察として順次廻り、所長をはじめとする職員からそれぞれの概要説明を受けます。その際、地元の市町村から要望を受けるのが通例となっています。福岡農林事務所は福岡市や糸島市、筑紫・糟屋地域の17市町が範囲で、総人口が県全体の約50%で大消費地でもあるため、宗像所も50カ所と多く、地産地消が活発なのが特徴です。一方、経営規模の拡大や所得向上を進めるためには、国内外の産地に対する競争力の更なる強化も必要とされています。

●中央家畜保健衛生所 「高病原性鳥インフルエンザの防疫体制について」

令和4年度に県内で発生した鳥インフルエンザの4事例はいずれも福岡農林事務所管内の農場でした。鳥インフルエンザが発生した際の役割としては、遺伝子検査による診断及び発生農場での防疫措置があります。現行の防疫体制としては「発生予防対策」と「まん延防止対策」があり、発生予防としては養鶏農場の衛生指導を強化し(消毒や野生動物侵入防止、専用服と長靴措置など)、まん延防止対策では被害を最小限に抑えるため関係機関と連携した防疫演習(埋却処分や作業者の消毒、鶏の捕獲など)を強化しています。



これらの他に、以下の箇所を視察しました。

●JAむなかた 宗像カントリーエレベーター  
【施設概要について】

●神湊港～宗像沿岸域漁場  
【漁業調査取締船「げんかい」について】

●株式会社みるくぶらんと 糸島工場  
【6次産業化による乳製品の製造・販売について】

地域公共交通・北下道路・洋上風力・J R 議連 合同管外視察 【日程】8月29日(火)～31日(木) 【先行】愛知県

●トヨタ自動車㈱ 本社工場 「F Cテクノロジーや水素事業について」

日本が世界に誇るトヨタの本社工場を訪れました。カーボンニュートラルの実現に貢献するために、F C (燃料電池) システムのサプライヤーとして水素活用の促進を目指した取り組みが進められています。中でも、汎用性の高いF Cモジュールや安全性と有用性を備えたH2タンクといったテクノロジーへの開発や投資の規模は、もはや自動車メーカーの域を超えた高度な社会実現への覚悟のようなものを感じました。地元トヨタ自動車九州の本社がある私にとっては改めてその貴重さを認識し、県としての水素事業の更なる展開も期待されています。

●武豊線 「歴史と経営の現状について」

愛知県で初めて建設された鉄道路線で130年以上もの歴史を誇る武豊線(J R 東海)に乗り、武豊駅から大府駅までの10駅間を移動しました。私はJ R九州福北ゆたか線活性化促進議員連盟の事務局長を仰せつかっており、福北ゆたか線との比較を行いながら観察をしました。当線は知多半島の平地を走っている分、沿線の発展性や乗車率は当然高いのですが、産業の移り替わりの歴史を大切にしたい観光振興を4市町が一体となって取り組んでいる点が立派でした。福北ゆたか線においてもこうした姿勢を改めて考えるべきだと反省されました。



これらの他に、以下の箇所を視察しました。

●愛知新エネルギーパーク (田原臨海風力発電所)  
【臨海発電所及び沖合の洋上風力発電計画海域について】

●中部国際空港連絡橋 (セントレア橋)  
【愛知県有料道路 コンセッションについて】

アメリカ合衆国 ボストン・ニューヨーク視察 【日程】10月15日(日)～20日(金) 【先行】マサチューセッツ州・ニューヨーク州

服部知事や香原議長をはじめとする県議のほか、九経連会長や九州大学総長、地元のバイオベンチャー企業の方々に加え、新聞記者も随行した総勢約50名の訪問でした。私もその内一人として参加した主な理由は、大学院生時にアントレプレナーシップ教育に縁があったことや、農林水産副委員長として八女茶のプロモーションについて学びたかったからです。

●マサチューセッツ工科大学 マーティン・トラスト・センター

センター長であるビル・オーレット教授よりアントレプレナーシップについて講話があり、リアルな課題解決を伴う「アクション・ラーニング」や、「個」ではなく「チーム」で会社設立の訓練を進めて行く重要性を学びました。失敗を恐れず早い展開で挑戦を重ねていく姿勢や、それに伴う人材の流動性を認める風土の醸成は、今の日本が見習うべきだと実感しました。

●モデルナ本社

新型コロナウイルスでも有名なモデルナ社では、パトリシア・ゴーチェ／クリスティ・ショー両副社長から、会社のこれまでの過程(13年前にわずか3名でスタートし、現在は6,000人規模)や、今後の事業計画について伺いました。特筆すべきは、mRNA技術やAIの駆使、小規模な製造機器により驚異的なスピードで創業やワクチンを完成させているところです。

●日本茶専門店「K E T T L」／八女茶プロモーション(ベアリング試食会)

ニューヨークで八女茶を取り扱う日本茶専門店「ケトル」を訪問し、創業者のザック・マンガン社長から品質の維持や国民からの評価についてお聞きしました。また、その日の夜にはメディア関係者やインフルエンサーを招いた八女茶とウィーガン料理のベアリング試食会が行われ、八女茶(日本茶)がさらに海外の飲食店で取り扱われることに期待が持てました。



これらの他に、以下の箇所を視察しました。

●マサチューセッツ州政府  
【モーラ・ヒーリー知事、イボン・ハオ経済長官との面会・意見交換】

●在ボストン日本総領事館 [Fukuoka Innovation Night]  
[鈴木光太郎 在ボストン日本総領事、現地VC・日本人会らとの交流会]

●Mass Bio (マス・バイオ)  
[ベン・ブラッドフォード 渉外部長との意見交換]

●レクリエーションセンター (N J州クレスキル)  
[ベン・ロメオ町長らとの意見交換・現地視察]

子育て支援・人財育成調査特別委員会 管外視察 【日程】10月25日(水)～27日(金) 【先行】石川県・富山県

●こまつの杜(小松製作所) 「女性社員の育成と育児支援の取組について」

建設機械で有名な小松製作所の発祥地にある「こまつの杜」を訪れ、女性社員支援をはじめとするジェンダー・ダイバーシティ推進の取組について伺いました。女性が「働き続けられる環境」から「活躍し続けるための環境」への転換を目指されており、採用の段階では女性技術者との交流を積極的に促し、育児サポート体制ではとりわけ不妊治療休暇制度の新設(最大1年)があるそうです。また、現場の女性の声を積極的に形にした女性モデル職場の設置や、LGBTへの理解促進といったリテラシー向上の取組にトップが率先して取り組んでいました。

●立山科学㈱ 「女性の活躍推進・働きやすい職場環境づくりの取組について」

富山市に抵抗器をはじめとする電子部品やFAシステム、ソフトウェアなどを製造している立山科学では、女性社員の割合が低いからこそ女性自身が「何をやりたかか、どうなりたかか、チャンスを得る行動とは?」ということを考え実践されていました。それぞれのライフスタイルに応じて個々の能力を最大限発揮する短時間勤務や時差出勤といった制度が整っており、産休・育休からの復帰率は100%だそうです。また、男性の育児休業取得も同様に推進しており、2022年度の取得率は41%(前年度は14%)と上昇傾向にあるそうです。



これらの他に、以下の箇所を視察しました。

●いしかわ子ども交流センター (公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団)  
【結婚・子育て支援の取組について】

●丸文通商㈱  
【男性の育児休業取得推進の取組について】

農林水産委員会 管外視察 【日程】11月15日(水)～17日(金) 【先行】静岡県

●JAみっかび 「みかんの生産におけるスマート農業の取組について」

浜松市の「三ヶ日みかん」の柑橘選果場を見学しました。総事業費は約80億円、延床面積は22,411㎡と世界最大級です。三ヶ日みかんは県果に比べて単価が上昇傾向がありますが、供給量が不足しているため需要に応じた生産を目指されています。荷受けから選果・出荷までのラインのほとんどを自動化することで、日本国内最高クラスの一日あたり500トン超の処理能力があります。また、AI選果機の導入によって選果精度の向上、選果に要する作業時間の削減も実現しています。

●花の舞造㈱ 「日本酒の輸出について」

浜松市にある酒蔵で、酒造りに関わる全ての要素が静岡県産であることをモットーとされています。1997年(平成9年)から輸出を開始し、2012年(平成24年)には輸出部を設立。現在、香港やアメリカを中心に、シンガポールや台湾、韓国、オーストラリア、ベトナム、タイ、中国と輸出しており、B U市場の開拓にも取り組まれています。2022年の輸出額は1億円超で、2020年比ではほぼ倍増しておりますが、近年伸びている中国(輸出額141億6千万円)や香港(71億1千万円)、韓国(25億2千万円)らはカントリーリスクが強いので分散化をしています。



これらの他に、以下の箇所を視察しました。

●農事生産法人 東邦農園 (KAWANE抹茶㈱)  
【茶の生産におけるスマート農業の取組について】

●富士市商工会  
【地元の米を使用した米粉麵「富士山ひらら」の取組について】